

宣誓認証済み Comet Earth 技術説明と事業概要

— 画期的な空間認識・拡張現実技術による新分野確立への挑戦 —

株式会社スタイリッシュアーツ

1. Comet Earth (コメットアース) 技術について



株式会社スタイリッシュアーツが保有するComet Earth技術「略称：CE」とは、特徴点を検索照合し画像を特定する従来の形式とは**全く異なる空間認識技術**です。空間認識に最重要となる対象の**認識速度を極限まで高める発想**により、リアルタイムでの処理が可能となりました。携帯端末（ウェアラブル）やクラウドなどへ最適の技術です。高認識率はそのまにネットワーク上でも高速な認識判定が可能な**画期的技術**です。

□ 研究の始まり

平成25年、印刷物（特殊印刷物）の赤外線による読取判別に変わる技術を求められたことにより、現在の株式会社スタイリッシュアーツ代表の片岡忠久により空間を特殊配列のコードに変換する発案がなされ、PC、タブレット、スマートフォン等で実現できることが立証されました。

□ 技術の確立のための宣誓認証（他に類を見ない技術の立証）

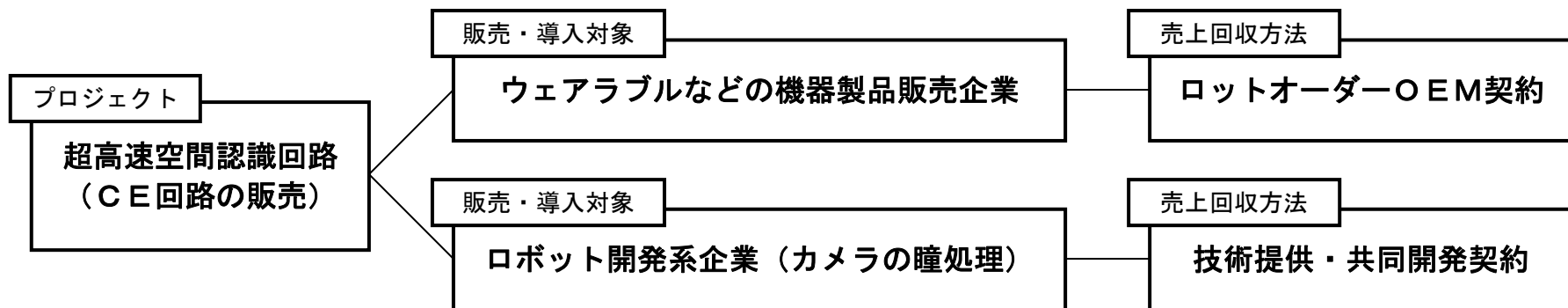
技術実現が立証された後、半年間の更なる認識速度と精度改善の研究開発を経て本技術に新たな分野確立の可能性を見出し、平成26年6月6日に公式文書（保有技術）としての宣誓認証を取得しました。

※以上の研究開発は、現在の株式会社スタイリッシュアーツの前身となるベンチャープロジェクトチーム（長岡技術科学大学、長岡大学出身メンバーによる）Stylish Art's として研究開発を進めてきました。

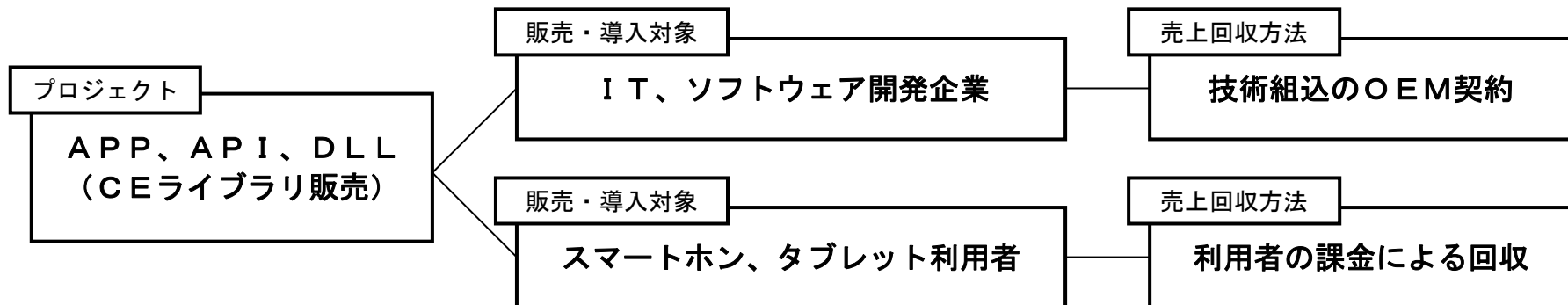
2. ビジネスモデルについて

これまでと全く異なる切り口で、新たなサービスを提供することができるCE技術において以下のようなビジネスモデルを立ち上げ経営を進めています。

□ 機器製造、製品販売などを主としているIoT企業（ロボット産業含む）向けモデル（CE回路の販売）

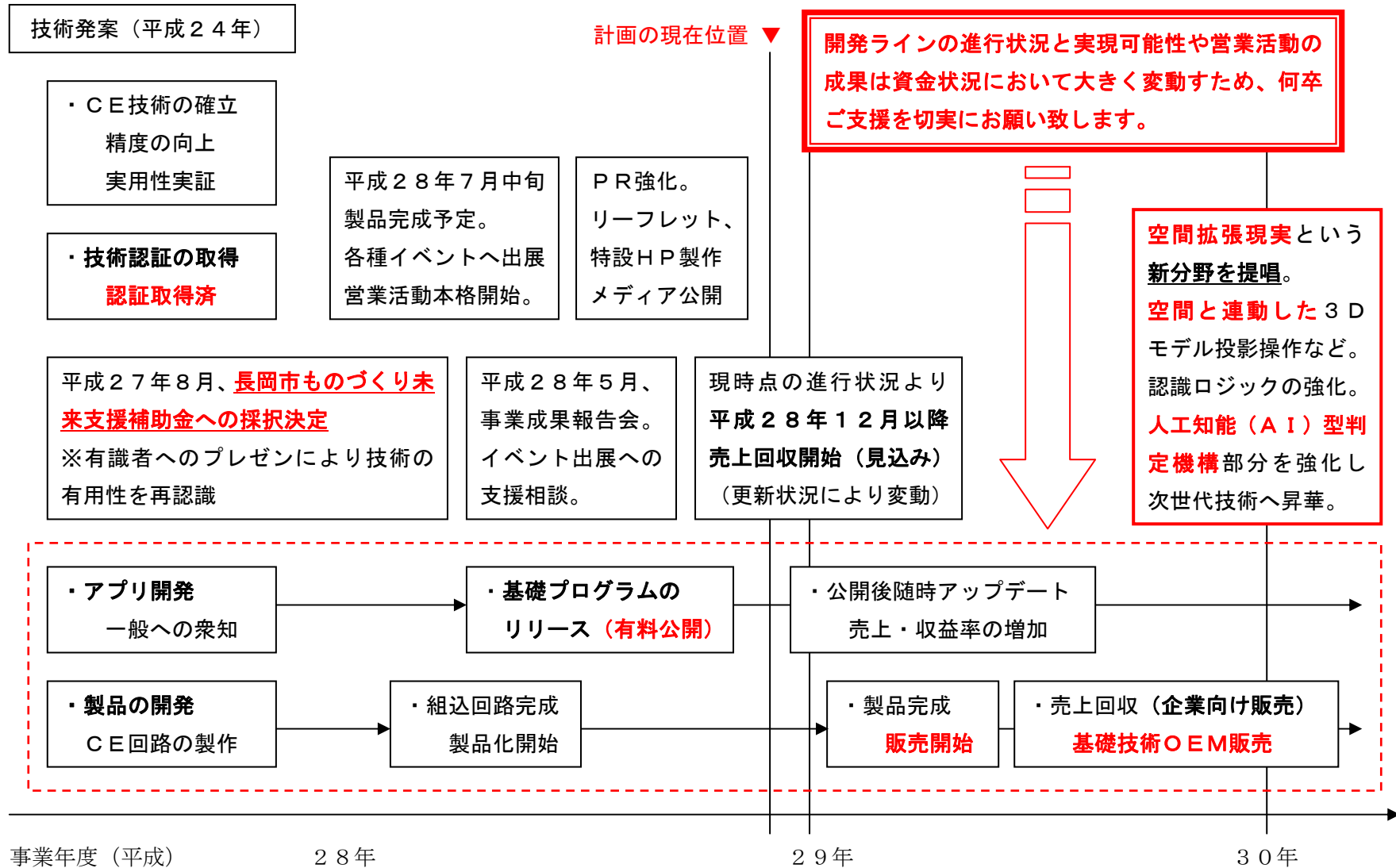


□ ソフトウェア系サービスの提供を主として行っているIT企業向けモデル（CEライブラリの販売・活用）



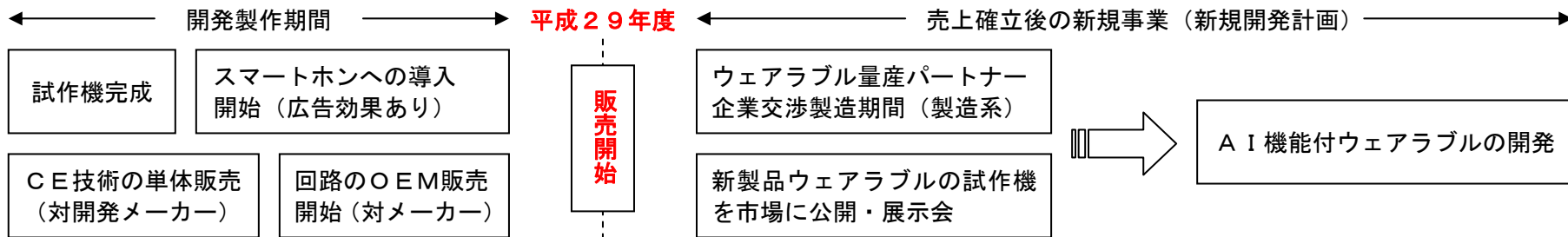
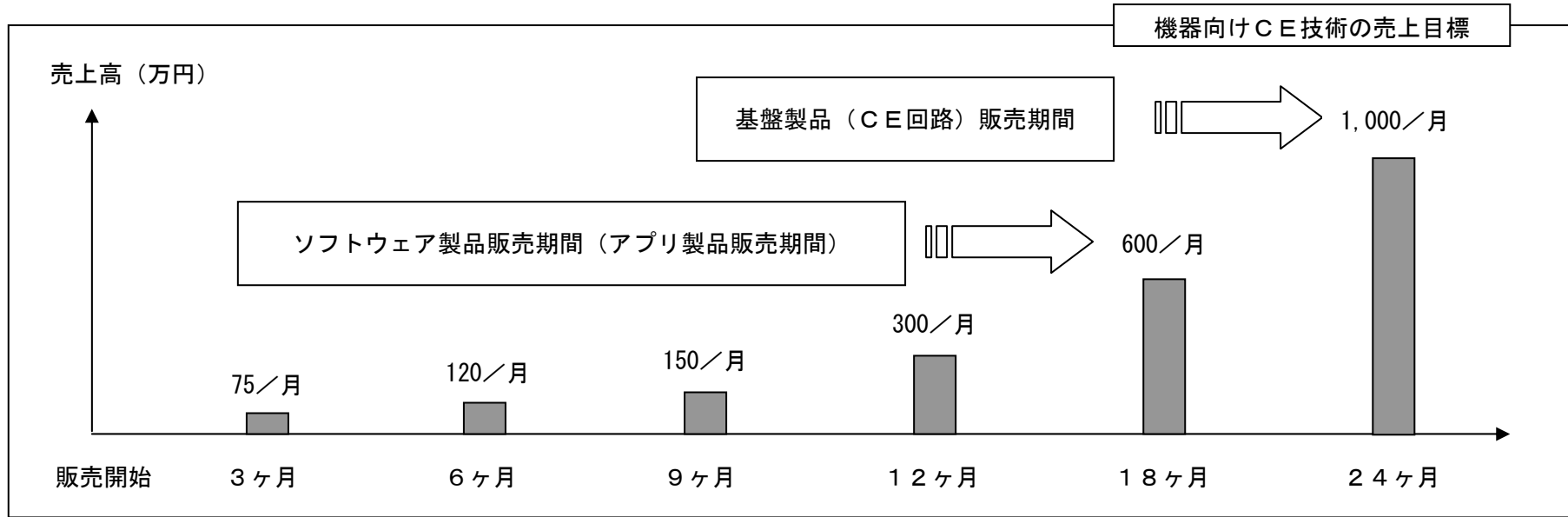
経営安定、リスクマネジメントの観点から**弊社独自のアプリ販売・組込業務**も行っています。

3. 事業計画の推移について



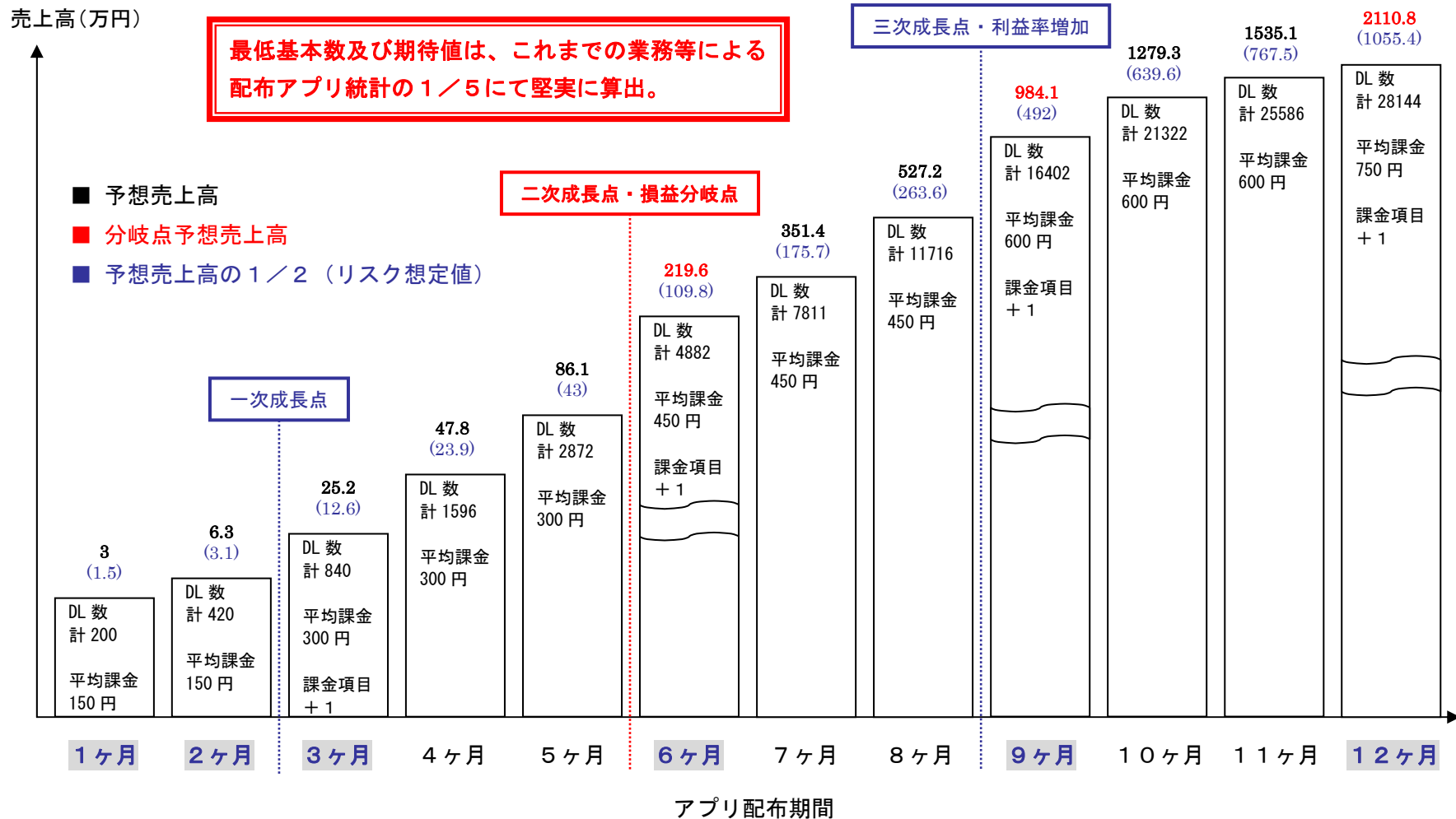
4-1. 売上予想と売上推移について ※IoT企業（メーカー）向けビジネスモデル：CE回路の販売

ウェアラブル向け空間認識（CE技術）搭載機器・技術の売上目標（CE回路のみで月商1,000万を目標）



※ 試作機完成後の1年は、CE技術の単体販売及びスマートホン等への搭載を行いながら、CE回路の優位性を展示会などでアナウンスし、OEM販売に向けて尽力します。現在既いくつかある取引先との量産に向けての交渉検討を進め、次世代ウェアラブル機器としての発表を行います。CE回路のみで月商1,000万を当初の売上目標とし、スマートホン向けCEではその2倍の2,000万円を月商目標とします。

4-2. 売上予想と売上推移について ※IT企業（ソフトウェア系）向けビジネスモデル：CEライブラリの販売・活用



DL増加率算出方法（総数に加算）： $DL総数 \times (1.2 [増加期待計数] - (0.1 [興味低下率] \times (経過月数 - 1)))$

平均課金算出方法： $300円 [最低課金期待値] \times 課金項目数 (アップデート追加) \times 0.5 [予測リスク軽減値]$

5. 取引先実績（技術実績）について

□ CEに関する案件

株式会社タカトミー、DNP（大日本印刷株式会社）関連 「プリパラ」筐体へCE技術（DLL）の組込

これまでの赤外線での読取に変わり、CEでも読取技術を採用、読取率テスト等の企業を経て現在全国の店舗にて設置稼働中です。このほか、関連商品であるカード絵柄とLED発光による読取認識の案件を進行中。

<交渉中案件>

共同印刷株式会社：自社独自フォントと他のフォントの識別を行い、ARを付加した価値あるサービスの提供。
株式会社バンダイ：ポケットモンスターや妖怪ウォッチ関連商品へのCEの活用を提案中。

読み取りやキャラクター検索のデモンストレーション開発を受注済み。

□ その他の案件

日本精機株式会社 Defi 企画開発部と機器通信系のアプリ開発（納品済み）
※アップデートOSへの対応など追加案件を受注中です。直接取引を行っています。

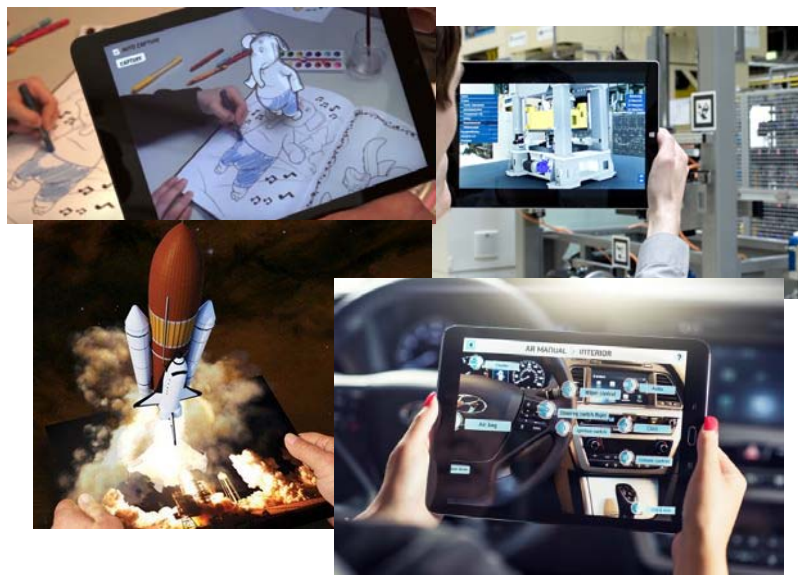
その他、多数のシステム開発系案件の実績があります。

6. CEの活用方法と展望（実現可能性イメージ）について ※既存の拡張（仮想）現実との目的、方向性の違い

現在話題になっている既存の拡張現実と呼ばれる技術は、バーチャルリアリティ（VR）の変種と分類されており正しくは仮想現実を拡張する技術といえます。CEの技術を活用することにより、現実を拡張し不足を補い利便性を得るといふ本当の意味での拡張現実を実現することが可能です。更にCEの最大の特徴である判定速度の超高速化とビッグデータなどからの最適化データの活用により、場所を選ばないリアルタイムでの使用を実現することができます。

既存の分野と方向性

現在、以下のように脚光を浴びている技術分野ですが、用途と場所が限られ制作費用も多大なのが現実です。



CEが創る新分野と方向性

- ・街並み標識、店舗空間などの説明の多言語（音声）案内
- ・ビッグデータとの連動による補助技術としての福祉利用
- ・認識した現実空間への投影、空間拡張（加算補完）



現在注目の分野においても実現不可能な未来を、**新たな分野としてCE技術なら実現**することができます。